

『日葡辞書』所収仏教語彙について - 「仏法語」を中心に -*

申雄哲**

< 目次 >

- | | |
|---------------|---------------|
| 1.はじめに | 4. 「仏法語」の意義説明 |
| 2. 『日葡辞書』の仏教語 | 5. おわりに |
| 3. 「仏法語」の注記形態 | |

Key Words : 키리시탄 자료 크리스탄資料(Christian Material), 선교언어학 宣敎言語學(Missionary Linguistics), 대역사전 對譯辭書(Bilingual Dictionary), 일포사전 日葡辭書(Japanese-Portuguese Dictionary), 텍스트마이닝 텍스트마이닝(Text Mining)

<요지>

『일포사전』에 수록된 불교어휘에 대하여 - 「仏法語」를 중심으로 -

신용철

키리시탄관 『일포사전』은 본편과 부록편이 각각 1603년과 1604년 나가사키에서 출판되었다. 사전 편술의 목적은 일본에서 선교하는 가톨릭 선교사들의 일본어 학습을 위한 것으로, 구어를 중심으로 실용적인 어휘를 엄선하여 수록한 것으로 평가받는다. 특히 실용적인 일상어뿐만 아니라 딱딱한 문장어, 불교 및 신도와 같은 일본

* This work was supported by the Ministry of Education of the Republic of Korea and the National Research Foundation of Korea (NRF-2021S1A5C2A02086984)

** 国立ハンパツ大学校 日本語科 助教授, 語彙論・日本語史

토착 종교의 용어 등 이른바 이해 어휘까지 수록한 것은 특기할 만하다. 이 문헌에 대해서는 『邦訳日葡辞書』가 출판된 이후 일본어 연구 자료로서 다방면에서 이용 및 연구되어 왔으며, 해당 사전에 수록된 불교 어휘에 대해서도 규모에 대한 규명이 이루어져 왔다. 다른 한편으로는 일포사전뿐만 아니라 다른 키리시탄 문헌 전반에서 이루어진 불교 어휘의 사용 양상에 대해서도 조망되었다. 본 연구에서는 이 사전에 수록된 불교용어 중에서도 일정한 형태적 특징을 갖는 ‘仏法語’에 주목했다. 불교와 관련한 일본어 어휘들에 대해 어떠한 어휘를 사용하여 설명하고 있는지를 파악하기 위해 텍스트마이닝을 진행하였다. 이것을 통해 16~17세기 일본에서 불교라는 재래 종교를 가톨릭 선교사들이 갖고 있었던 인식을 언어적인 측면에서 가늠해 볼 수 있을 것으로 기대한다.

1.はじめに

キリシタン版『日葡辞書』は本篇・補遺篇がそれぞれ1603年、1604年に長崎で出版された。辞書編述の目的は日本で布教するカトリック宣教師の日本語学習であり、話し言葉を中心に実用的な語彙を厳選収録していると評価される。この辞書には約32,000語の日本語語彙が収録され、その中には実用性のある日常語のみならず、堅苦しい文書語、仏教・神道のような日本の在来宗教の用語などいわゆる理解語彙にまで収録していることは特記すべきである。『邦訳日葡辞書』の出版以来、日本語研究資料として様々な方面から研究され、仏教語彙についても盛んに研究されてきた。

土井ほか(1980)、森田(1993)は、仏法(Bup.)の注記を有する「仏法語」の規模を明らかにしている。そして、鈴木(1991)、金井(1993)、日野(1997)、小島(2007)、狭間(2015)などでは日葡辞書のみならず他のキリシタン文献全般における仏教語彙使用の実体について俯瞰している。

本研究では、邦訳索引において「仏法語」として掲げられている語を対象とし、その注記形態を分類検討し、さらにその意義説明におけるポルトガル語語彙の使用傾向についてテキストマイニングの手法を取って検討する。

2. 『日葡辞書』の仏教語

『日葡辞書』の「例言」には語彙の特性についての注記について言及し、特に「仏法(Buppô)の語にはBup.(仏法語)と注する」と述べながら、「仏法語の多くは、難解で、用いられることも少なく、特定の教義または宗派独特の専門用語の類なので、収載するのを見合わせた」と言っている¹⁾。

その『邦訳日葡辞書』(以下、邦訳と略す)の「解題」にはBup.の注記が施された語は150語を数えるとしている²⁾。一方、『邦訳日葡辞書索引』(以下、邦訳索引と略す)には、Bup.の注記の語に加え、ポルトガル語の語義説明において「Palaura do Buppô」または「no Buppô」のような文言が用いられた語を含めた174語を「特殊語索引(Ⅱ)」の「仏法語」の項にまとめて掲げている³⁾。

森田(1993)は「仏法語」の注記(Bup., Palaura do Buppô, no Buppô)が施されていない見出し語の中でも、「仏(Fotoque)」「禅宗(Ienxù)」「異教徒(gentio)」などの語を語義説明に用いている語には仏教語として分類できる語彙があることを指摘している⁴⁾。注記のない仏教語については、今泉(1971)は『日葡辞書』所収の仏教語として「必ずしもブッポウとするした語ばかりではない」約1,169語をその漢字表記などととも収集している⁵⁾。ただしこれらについては「ちよっと見ると仏教語であるかどうか疑はしいやうなものまで気になつて捨つたものもある」⁶⁾と述べているように、再検討の余地がある。一方、日野(1997)は本辞書に「仏法語」の注記を持たない仏教語を、仏教の経典名や宗派名、真宗関係語彙などに類別して示している⁷⁾。

1) 原文の日本語訳は土井ほか(1980: 4-5)に拠った。以下同じ。

2) 土井忠生ほか(1980)『邦訳日葡辞書』, 岩波書店, p.13

3) 森田武(1993)「仏法語」『日葡辞書提要』, 清文堂出版, p.334

4) 森田武(1993)「仏法語」『日葡辞書提要』, 清文堂出版, p.334

5) 今泉忠義(1971)『日葡辞書の研究』, 桜楓社, pp.520-539

6) 今泉忠義(1971)『日葡辞書の研究』, 桜楓社, p.538

7) 日野振作(1997)「初期キリスト教宣教師の仏教語理解」『親鸞教学論叢: 村上速水先生喜寿記念』(村上速水先生喜寿記念論文集刊行会編), 永田文昌堂, pp.156-160

3. 「仏法語」の注記形態

3.1 「仏法語」の全貌と注記のバリエーション

本稿では邦訳索引「特殊語索引(Ⅱ)」所収の「仏法語」174語に対して「対訳ラテン語語彙集(LGR)」⁸⁾を参考にして原文の確認を行った。その結果、「仏法語」であることを明示する注記の形態はBup.に限らず、いくつかのバリエーションが存在することを確認した。それについては後述することにする。

そして、データベースによる原文の確認によって、邦訳索引の「仏法語」には収録されていないが、確かにBup.の注記を有する下記の3語(本篇2、補遺1)を見つけた⁹⁾。

(1) 上界(じょうかい, 367R)¹⁰⁾

[J] Iōcai. **Bup(仏法語)**. [P] Mundo superior, ou sobre os Ceos.(上の世界、あるいは、天上界) [J] Vt, Iōcai guecai.(例、上界下界) [P] Ceos, & terra, ou mundo superior, & este inferior.(天と地と、または、上級の世界と下級のこの世界と。)

(2) 頓証(とんしょう, 661R)

[J] Tonxô. Niucani satoru.(頓かにさとる) [J] Vt, Tonxôbodai.(例、頓証菩提) [P] O saluarse algũa alma, que estaua em pena por causa de algum solenne officio, que nesta vida se fez por ella(苦悩していたある死者の靈魂が、この世においてその人のために執り行なわれたある厳粛な祭事によって救われること). **Bup.**¹¹⁾

8) 豊島正之『対訳ラテン語語彙集(Latin Glossaries with vernacular sources)』<https://joao-roiz.jp/LGR/> (最終アクセス: 2023.11.15., 但しサーバOSのサポート期限のため、2024年2月以降はサービス停止中)

9) これらの語は邦訳索引の「総索引」には収録されている。

10) 以下、『日葡辞書』の見出し語は「邦訳の漢字表記(邦訳の現代仮名遣い表記, 邦訳における所在(頁数+L(左段)/R(右段))」のように示し、本文は豊島正之氏によって公開中の原文テキストデータベース「対訳ラテン語語彙集(LGR)」に従って[J](日本語部分)と[P](ポルトガル語部分)の区切りを示したローマ字表記の原文に、括弧付きの邦訳を併記する。

11) 邦訳では語義説明の最後尾のBup.が反映されていない。

(3) 悟り(さと), 561R)

[J] Satori. [P] O adeuinbar, ou a cortar com o que se cuida, cuimagina(思っている事、あるいは、想像している事を、うまくさぐりあてること、あるいは、考えあてること). [P] ¶ Item, Modo de meditar dos Ienxus & cair nas cousas do **Bup**(また、禅宗僧が観念・瞑想をこらして、仏法関係の事柄を了解すること).

「上界」と「頓証」は注記の位置は異なるものの、いずれもBup.が辞書約物として使われている。一方、「悟り」は通常の文章としてBuppoとあるべきところをBup.で略記した例であるが、語義説明の最後尾に辞書約物の機能を兼ねたものと考えられる。

以上を踏まえて、従来の邦訳索引所収の174語と新発見の3語を合わせた177語¹²⁾を「仏法語」として定義して、以下の議論を進めることにする。その注記の形態のバリエーションは次の表1のようである。

表1 「仏法語」の注記形態のバリエーション

注記形態	語数合計	語数(本篇)	語数(補遺)
Bup.	149	106	43
Bupp.	6	5	1
Buppô, Buppô, Buppò	16	12	4
その他	6	4	2
合計	177	127	50

3.2 注記Bup.の出現位置

上述で確定したBup.注記の149語における注記の出現位置は次のように二つに大別することができる。

12) Bup.注記の語は149語にとどまり、森田(1993: 334)の150語とは一致しない。ちなみに土井ほか(1980: 13)には「約150語」と概数を述べているために比較できない。さらに本篇と補遺の内訳も本稿の調査では本篇106語—補遺43語となり、「本篇110、補遺40」としている森田(1993: 334)とはずれがある。これはBupp.注記の6語、依報(えほう, 816L)、教相(きょうそう, 489L)、心法(しんぽう, 768R)、造悪不善(ぞうあくふぜん, 842R)、道人(どうにん, 188R)、撥無(はつぶ, 212L)、を足しても解消しない。

(4) 法性(ほっしょう, 267R)

[J] Foxxō. **Bup(仏法語)**. [P] Primeiro principio, ou natureza do Fotoque(本源、または、仏の本性).

(5) 本有(ほんう, 261R)

[J] Fon v. Motoyori v, nari(本より有、なり). [P] Cousa que ouue, ou tem ser desdo principio(原初から本然の性質を具有していた、あるいは、具有しているもの). **Bup(仏法語)**.

つまり、「法性」のように見出し語の後に記される「先頭型」と、「本有」のように語義説明の最後尾に現れる「後尾型」である。先頭型は41語、後尾型は105語で¹³⁾、後者の例が優勢である。さらに本篇と補遺に分けて検討すると、本篇の106語では先頭型(41語)と後尾型(62語)とが拮抗する様相を呈するが、補遺では全例(43語)が後尾型となっている。これは本篇において統一性の欠いた注記位置が、補遺においては統一方針をとるようになったといえよう。

先頭型において、訓釈、つまり漢字表記の手がかりとなる辞書記述が提示されている場合は、次の「五智」と「五塵」の例で見るように、それとBup.注記の位置は一定しない。先頭型に分類される41語の中で訓釈が記されている21例であり、Bup.注記が訓釈より前に記されている場合は17例、訓釈より後ろに来るのは4例であり、見出し語の直後に注記される例が優勢となる。

(6) 五智(ごち, 304L)

[J] Gochi. **Bup(仏法語)**. Itçutçuno chiye(五つの智慧). [P] Cinco maneiras de saber que ha no Fotoque(仏に具わっている五種の智慧).

(7) 五塵(ごじん, 306L)

[J] Gogin. Itçutçuno qegare(五つのけがれ). **Bup(仏法語)**. [P] Cinco objectos dos sentidos que costumão macular o homem(とかく人間をけがすことの多い、五つの感官の対象物).

ただし、次の「解脱」のようにポルトガル語の語義説明の途中に現れる

13) 後述するいずれの類型にも入れられない3例(すべて本篇所収語)は除外した数である。

例(1語)、「空々」「遍照」のように見出しの「例(Vt)」として示された派生語の後にあって、Bup.注記の対象が定かではない場合(2語)がある。これらの3例は上述の分類には入れなかった。

(8) 解脱(げだつ, 294R)

[J] Guedat. [P] Liurar, ou libertar(解放すること、あるいは、自由にする事). **Bup(仏法語)**. O principal sentido he liberdade acerca das paixões, & vicios(主要な意味は、さまさまの情欲や邪惡にとらわれない自由さということである).

(9) 空々(くうくう, 161R)

[J] Cùcù. [J] Vt, Cùcùjacujacu(例、空々寂々). **Bup(仏法語)**. i. Fõv(すなわち、本有). [P] Hum ser, ou principio antes das creaturas sensiuéis(知覚できる万物が創造される以前の或る存在、または、始原).

(10) 遍照(へんしょう, 222L)

[J] Fenxô. Meliùs, Fenjô(へんじょうと言う方がまさる). [J] Vt, Quõmiõfenjô(例、光明遍照). **Bup(仏法語)**. Amanecu terasu(遍く照らす). [P] Alumiar tudo, como cuidão os gentios que alumia o Fotoque(ゼンチヨ(異教徒)が考えているように、仏が万物を照らすこと).

表2 日葡辞書の語義説明におけるBup.の出現位置

出現位置	語数	語数(本篇)	語数(補遺)
先頭型 (見出しの直後)	41	41	0
後尾型 (語義説明の最後尾)	105	62	43
例外	3	3	0
合計	149	106	43

3.3 注記Buppô、Buppô、Buppòについて

ここでは綴りを略さずBuppô、Buppô、Buppòのような形で記された16例の注記

形態について検討する。まずは次の「三世間」のように、いわば辞書約物として機能するものが6語¹⁴⁾である。

(11) 三世間(さんせけん, 556R)

[J] Sanxeqen. [P] Tres montes(三つの山). Buppō(仏法語).

そして、残り¹⁵⁾の10語に関しては、次の「雑行」のようにPalaura do/de Buppô(仏法の語)の句で記されている3例¹⁵⁾、「六波羅蜜」のようにno/do Buppô(仏法において/仏法の)を含む句に用いられている7例¹⁶⁾に分かれた。

(12) 雑行(ぞうぎょう, 843L)

[J] Zōguiō. [P] Obras viciosas(邪悪な所行・行為): palaura de Buppô(仏法の語).

(13) 六波羅蜜(ろくはらみつ, 539L)

[J] Rocufaramit. [P] Seis qualidades, ou dotes dalma segundose diz no Buppô(仏法で説くところによれば、靈魂の六つの能力、あるいは、通力).

3.4 その他の注記について

「その他」に分類した6例には、まず次のようにBup.とあるべきところに別の注記が間違っ¹⁷⁾て記されているものが3語ある。

(14) 禅波羅蜜(ぜんばらみつ, 356L)

[J] Ienbaramit. [P] O considerar, ou meditar as cousas da saluação conforme a certo modo que Xaca ensina(釈迦の教えるある方法に従って、救霊の事について考えをめぐらしたり、観念・瞑想したりすること). B(仏法語).¹⁷⁾

14) 同参(どうさん, 189R)、鹿族・鹿属(ろくぞく, 540L)、六欲(ろくよく, 540L)、三世間(さんせけん, 556R)、四智(しち, 761L)、心外(しんげ, 769R)。

15) 煩惱(ぼんのう, 061L)、出纏(しゅつでん, 803R)、雑行(ぞうぎょう, 843L)。

16) 金翅鳥(こんじちよう, 146R)、本心(ほんじん, 260R)、法報応(ほっぽうおう, 262L)、本性(ほんしょう, 262L)、六波羅蜜(ろくはらみつ, 539L)、真如(しんによ, 771L)、縁(えん, 818L)。

(15) 信服(しんぶく・しんぶく, 772R)

[J] Xinpucu. 1. Ximbucu. [P] Crêndo chegarse, ou tornarse pera o bem(信じて善に近づくこと、または、善に心を向けること). **B(卑語)**.¹⁸⁾

(16) 起居動静(きこどうじょう, 494L)

[J] Qicodôjô. Voquru, iru, fataraqu xizzucani xite iru(起くる、居る、はたらく、静かにして居る). [P] Aleuantarse, estar, trabalhar, & estar quieto sem se mouer(起き上がる、居る、働く、動かないでじっと静かにしていること). [P] ¶ Itẽ, Em todo tempo, ou sempre(また、あらゆる時に、または、常に). [J] Vt, Qicodôjôno aida vasurezu(例、起居動静の間忘れず). [P] Lembrarse sempre em todo tempo(四六時中いつもおぼえている). **S(文書語)**.

「禅波羅蜜」と「信服」の後尾に位置する注記B.に対して邦訳では「仏法語」または「卑語」と一定しない翻訳を呈しているが、「Buppoの略」または「Bup.の誤り」という訳注を付する。しかし「起居動静」の後尾にあるS.に対して邦訳では特に訳注なども付けていない。

一方、次の3例は、禅宗(Ienxus)または坊主(Bozos)のように仏教の文脈を匂わせる術語の使用によって「仏法語」と見なされたものと考えられる。

(17) 善法(ぜんぼう, 356R)

[J] Ienbô. [P] Seita, ou ley dos **Ienxùs**(**禅宗**の宗派、あるいは、その教法).

(18) 朝参(ちょうさん, 128L)

[J] Chôsan. Axita mairu.(朝参る) [P] O ir polla menhaã a tomar os pontos de meditação(朝、観念・黙想の題目〔公案〕を貰いに行くこと). [J] ¶ Bosan.(暮参) [P] O ir à tarde dar conta destes pontos(夕方、その観念・黙想の題目〔公案〕について説明しに行くこと). [J] **Ienxù(禅宗の語)**.

17) 邦訳に「原文にはB.とあるが、ここはBaixo(卑語)の略ではなくて、Buppoの略であろう。」と注されている。

18) 邦訳に「別条XimbucuにはS.(文書語)とあり、本条はBup.(仏法語)の誤りかとも考えられる。」と注されている。

(19) 陪堂(ほいとう, 258R)

[J] Fõitõ. i, Cate(糧に同じ). [P] Mantimento(食糧). **Palaura de Bõzos, &c.(坊主などの用いる言葉)** (下略)

禅宗(Ienxus)や坊主(Bozos)のようにポルトガル語による語義説明に使われている日本語由来の特徴的な語彙は、今後「仏法語」から仏教語へ拡張した研究の重要な手がかりとして意味を持つであろう¹⁹⁾。

4. 「仏法語」の意義説明

4.1 意義説明に用いられた語彙

仏法語として掲げられたこれらの語彙の意味的な特徴を客観的に記述することは容易ではない。本研究では日本語の見出し語に対してポルトガルで記述された語義説明に着目する。その語義説明における使用語彙の特徴を見出すことで「仏法語」に対する記述傾向を検討したい。

『日葡辞書』の本文には見出し語を含めて日本語による記述が含まれる。たとえば次の「慧日(Yenichi)」という語に対して、まずは日本語で「Chiyeno ficari (智慧の光).」のように訓釈したあと、ポルトガル語による語義説明が続くことがある。

(20) 慧日(えにち, 819L, 補遺)

[J] Yenichi. **Chiyeno ficari(智慧の光)**.

[P] Clareza do entendimento(智慧 [悟性] の明哲さ). Bup(仏法語).

以下の調査ではこのように専ら日本語によって記述された語義説明は対象から除外した。但し、次の「覚前」で見るとポルトガル語による語義説明の文中で用

19) 「仏法語」177語の語義説明における日本語語彙の出現頻度を調べると、「仏法(Buppo/Buppõ)」29例、「仏(Fotoque/Fotoqe)」19例、「悟り(Satori)」と「悟る(Satoru)」が合わせて11例、禅宗(Ienxu/Ienxus/Ienxus)」10例、「釈迦(Xaca)」4例、「坊主(Bonzo/Bozos)」2例という結果になる。ポルトガル語で異教徒を意味する「gentios」も5例確認された。これを手がかりにした考察は稿を改めて行いたい。

いられている日本語の語彙は除外しなかった。20)

(21) 覚前(かくぜん,p075L)

[J] Cacujen. Satorino maye(覚りの前). Bup(仏法語).

[P] O estar exercitado nas meditações dos **Ienxus**
(禅宗の瞑想・観念について修行を積んでいること).

以上のような方針によって作成したテキストデータに、さらに表記の正規化などを行った。そして、それに基づいてWord2Vec²¹⁾の手法で、出現頻度5以上の語彙を対象に絞ってクラスタリング²²⁾を行った。

表3 「仏法語」の語義説明におけるポルトガル語主要語彙のクラスタ

クラスタA		クラスタB		クラスタC		クラスタD		クラスタE	
語	頻度	語	頻度	語	頻度	語	頻度	語	頻度
fotoque (仏)	12	tres (三)	7	vida (生)	12	buppo (仏法)	29	cousas (物・事)	24
saber (知恵)	10	causa (原因)	6	palavra (言葉)	9	principio (本源)	9	lei, ley (法)	13
alma (靈魂)	8	gentios (異教徒)	5	corpo (身体)	6	homem (人間)	7	obras (努力)	7
salvação (救済)	6			nacer (誕生)	5	via (経路)	6	modo (方法)	6
fala (言葉)	5					virtude (徳性)	5	primeiro (第一)	6
						meditar (黙想)	5	bem (よく)	6
						maneiras (様式)	5		
						ienxus (禅宗)	5		

20) 一方、Bup.のように辞書約物として機能する注記は、ポルトガル語の文中にあるものと見なされないものは全く除外した。

21) Word2Vecは、単語をベクトルで表現し、それによって単語間の距離や内積が定義され、単語と単語の間の「近さ」を定量化する手法である。

22) クラスタリングとは、機械学習などにおいて、特定のルールに基づいてデータセットをいくつかのグループ＝クラスタに分類すること。特にデータ間の類似度に基づいて、似たものを集めたグループに分ける手法など。クラスタの数の増減を行い、最終的には5個が最適と判断して行った。

たとえば「クラスタA」と名付けたグループに入っているfotoque, saber, fala, alma, mundo, salvao, xaca, dignidadeなどは相対的に類似度が高い語彙をグループ化したものである。しかし、その基になっているデータセットというのは、わずか170項目あまりの見出しの短い辞書記述であるため、このようなクラスタリングの結果に対して意味を与えることは難しい。以下、各クラスタに配属された主要語彙に対してそれが使用された原文と照合しながら検討していく。

4.2 クラスタA—saber(知恵), alma(靈魂), salvação(救済)

クラスタAの語彙の中で、日本語由来の「fotoque(ほとけ、仏)」や「xaca(しゃか、釈迦)」以外に使用頻度が高い語は「saber」である。参考までに現代ポルトガル語辞書からその意味を要約して引くと次のとおりである。²³⁾

saber [他動] ①知る、わかる、知って(わかって・覚えて・精通して)いる ②...できる、...の心得がある ③記憶する、覚える [自動] ①について知る(わかる)、知って(わかって)いる ②味がする [名] ①知恵、学識、博識 ②思慮深いこと、良識 ③経験

その語義解説における意味は、邦訳を参考にすると「知る、悟る、了解する、智慧」などに訳すことができる。そのような解説が当てられた見出し語というのは、知性についての概念を表す語彙ということができる。具体的な用例は下記のとおりである。

不識(ふしき, 288L)

Não **saber**(知らないこと)

我覚(ががく, 291L)

Saber naturalmente sem aprêder nem discorrer como disse Xaca de si(釈迦が、自分自身のことを言ったように、学ぶことも考究をつくすこともなくて、自然に悟ること).

五智(ごち, 304L)

Cinco maneiras de **saber** que ha no Fotoque.

23) 池上岑夫ほか(2012)『現代ポルトガル語辞典』(改訂版), 白水社。

(仏に具わっている五種の智慧)

見解(けんげ, 485L)

O Saber, & entender bem as cousas do Buppô.

(仏法に関するをよく知り、了解すること)

四智(しち, 761L)

Quatro maneiras de sciencia, ou saber(四種の学問、または、知識).

六波羅蜜(ろくはらみつ, 539R, 補遺)

Seis exercicios, & obras de virtude, que poem os Iapões aos principiantes como nouiços(日本人が、修練者のような初学者に課する、六つの修行と善行と). s(すなわち). ... Chiye(智慧). Saber(智慧).

さらにクラスAの中では「alma」という語も注目に値する。その意味をまとめるとつぎのとおりである。

alma [名] ①魂、靈魂 ②心、精神；感情；根性、性根 ③亡霊 ④勇氣
⑤生命、命；活気 ⑥人、人間；住民 ⑦中心人物；指導的精神 ⑧い
としい人 ⑨[事物の]生命、真髓 ⑩[砲の]内腔；[レールの]中心リブ；

語義解説においては「靈魂」などに訳されている。おそらく宗教者であったはずの編者にとって、日本の在来宗教における靈魂という観念的な事象について考え方について理解することは肝要であったろう。具体的な用例は下記のとおりである。

心色・心識(しんしき, 774R)

Espirito, & corpo(精神と肉体と). Item, Duas maneiras de espirito, ou alma(また(心識)、生死菜類は靈魂の二態).

心性(しんしょう, 774R)

Espirito, ou alma(精神、あるいは、靈魂).

靈心(れいしん, 528L, 補遺)

Alma(靈魂).

輪転(りんてん, 533L, 補遺)

i. Transformaçam da alma de hum corpo em outro, como fingem os gentios(すなわち、ゼンチヨ(異教徒)の想像しているように、ある肉体の靈魂が他のものに変身すること).

そして、「alma」に次いで使用頻度が高い「salvação」も宗教的な文脈を感じるところがある。その意味をまとめるとつぎのとおりである。

salvação [名] ①救助、救出 ②救済、救い ③挨拶

この言葉が使われた見出しは6個であり、その原文は次のとおりである。その語義説明を見ると、他宗教における「救い」の觀念に注目せざるを得なかったであろうと推測可能である。

五障(ごしょう, 310L)

Cinco especies de impedimentos que tem as molheres pera certas cousas da **salvação** como pera se fazerem Fotoques, &c.

(**救霊**に関する或る事について女人のもっている五種類の障り、たとえば、仏になるための障害など)

利物(りもつ, 532R)

Fim, ou cõsumação da **salvação** dos homens

(人間の**霊**を**救う**ことの終結、あるいは、完了)

三毒(さんどく, 554L)

tres raizes de peccados(罪惡の根源になるもの三つ). s. Cubiça, Ira, Ignorancia(すなわち、貪欲、憤怒、無智), q̃ impedem a **salvação**, & por isso se chamão tres peçonhas(これらは、**救霊**の妨げをなすものであるから、三つの毒と言われるのである).

禪波羅蜜(ぜんばらみつ, 356L, 補遺)

O considerar, ou meditar as cousas da **salvação** conforme a certo modo que Xaca ensina(釈迦の教えるある方法に従って、**救霊**の事について考えをめぐらしたり、觀念・瞑想したりすること).

さらに同根の動詞salvarは次の2例が確認される。

利他(りた, 536R)

Saluar, ou liurar aos outros.

(他人を**救済**すること、あるいは、救い出すこと)

頓証(とんしょう, 661R, 補遺)

O saluarse algũa alma, que estaua em pena por causa de algum sole
nne officio, que nesta vida se fez por ella.

(苦悩していたある死者の靈魂が、この世においてその人のために執り行なわれたあ
る厳粛な祭事によって救われること)

4.3 クラスタC—vida(生), corpo(身体), nacer(誕生)

クラスタBには一定した傾向を見出せない。一方、クラスタCに配属されている語
彙を見渡すと、生涯(vida)、誕生(nacer)、肉体(corpo)のような語が集まってい
る。その語義と主要用例は次のとおりである。

vida [名] ①生命、生、命 ②人生、一生；寿命 ③生き方、生活、暮ら
し；生計 ④生き物、生物 ⑤生氣、活力；生命感

八相(はっそう, 211L)

Oito estados que teue a vida de Xaca.

(釈迦が一生涯中にもっていた八つの相・状態)

業の網(ごうのあみ, 308L, 補遺)

Não poder escapar dos males por causa dos fados da vida antes de
nacer, segundo cuidão os gentios(ゼンチヨ(異教徒)の考えているところによ
れば、前世の宿命によって邪悪を免れることができないこと).

隔歴(きやくれき, 492R, 補遺)

O estarem diuididos em varios lugares, & estados os da outra vida.

(来世の人々が種々の場所や様々の境遇に分けられて居ること).

過去の業(かこのごう, 515R, 補遺)

Obras que hum faz na outra vida antes de nacer nesta.

(人が現世に生まれる以前の、前世でなした行為).

頓証(とんしょう, 661R, 補遺)

O saluarse algũa alma, que estaua em pena por causa de algum
solenne officio, que nesta vida se fez por ella.

(苦悩していたある死者の靈魂が、この世においてその人のために執り行なわ
れたある厳粛な祭事によって救われること)

宿報(しゆくほう, 799R, 補遺)

Retribuiçam, & castigo nesta vida dos males, que hum fez antes que
nella nacesse.

(人が現世に生まれる以前になした悪に対して、今生で受けるその報いと罰)

corpo [名] ①本体、主要部分 ②身体、体 ③[精神に対して]肉体

空裡(くうり, 170R)

Sustância sê cor, & **corpo**. i. espũ (色も形もないもの、すなわち、泡沫).
本覚(ほんかく, 260L)

Ser, ou sustancia do primeiro principio, ou Fotoque âtes de se
misturar no **corpo**, & viuer, &c.

(肉体と生命に交わり入る以前の本初の存在、実体、すなわち、仏)

合成(ごうじょう, 306R)

¶ Xidai gōjōno yexin(四大合成の依身).

Este **corpo** como emprestado composto dos quatro elementos.

(四つの要素から構成されている借物のようなこの身)

心色・心識(しんしき, 774R)

Espirito, & **corpo**. (精神と肉体と)

輪転(りんてん, 533L, 補遺)

i. Transformaçam da alma de hum **corpo** em outro, como fingem os
gentios. すなわち、ゼンチヨ(異教徒)の想像しているように、ある肉体の靈魂
が他のものに変身すること)

nacer [自動] ①生まれる、誕生する ②生じる、発生する ③成長し始める
[名] 誕生、出生；出現；夜明け

無生無死(むしょうむし, 437L)

O não **nacer**, nê morrer. (生まれも死にもしないこと)

過去の業(かこのごう, 515R, 補遺)

Obras que hum faz na outra vida antes de **nacer** nesta.

(人が現世に生まれる以前の、前世でなした行為).

流来(るらい, 544L, 補遺)

O tornar a **nacer**, ou morrer muitas vezes segundo a opinião dos
gentios.(ゼンチヨ(異教徒)の考え方によれば、生まれたり死んだりするのを何
度も繰り返すこと)

湿生(しっしょう, 786L, 補遺)

O **nacer** por via de podridam, como ratos, bichos, & outras cousas semelhantes.

(鼠、虫、その他これに類するものが、腐れ朽ちることによって生まれること)

4.4 クラスタD—**principio**(本源), **virtude**(徳性), **meditar**(黙想)

クラスタDには、内面的な修行活動(meditar)、内面的に追求すべき徳性(virtude)、根源(principio)などが配属している。その語義と主要用例は次のとおりである。

principio [名] ①始まり、発端 ②本源、根源、第一原因 ③原理、原則
④行動原理、主義 ⑤[物質の]要素、成分

本分(ほんぶん, 259R)

Primeiro **principio**. (原始・始原)

本覚(ほんかく, 260L)

Ser, ou sustancia do primeiro **principio**, ou Fotoque âtes de se misturar no corpo, & viuer, &c.

(肉体と生命に交わり入る以前の本初の存在、実体、すなわち、仏)

本心(ほんじん, 260R)

Primeiro **principio** de q~ se trata no Buppô.

(仏法において説かれる第一の根本のもの)

本有(ほんう, 261R)

Cousa que ouue, ou tem ser desdo **principio**.

(原初から本然の性質を具有していた、あるいは、具有しているもの)

法報応(ほっぽうおう, 262L)

Tres maneiras de atributos, ou qualidades que ha naquelle primeiro **principio** de que se fala no Buppô.

(仏法において説かれる、かの原初のものの具有する三様の属性、または、性質)

法性(ほっしょう, 267R)

Primeiro **principio**, ou natureza do Fotoque (本源、または、仏の本性).

無根本(むこんぼん, 430L)

Sem principio. (根源のないこと)

virtude [名] ①徳、徳性、美德、高潔 ②善行、徳行 ③貞潔、純潔、貞節 ④効能、効力、能力 ⑤原因、動機

不思善(ふしぜん, 287R)

Não cuidar na **virtude**(善徳に心をかけないこと).

Vt, Fuxijen, fuxiacu. (例、不思善、不思悪)

Não cuidar na **virtude**, nem na maldade. (善徳にも邪悪にも心をかけないこと)

造悪不善(ぞうあくふぜん, 842R)

Fazer pecados sem ter, ou fazer **virtude**.

(善徳を保たず、または、徳行をなさないで、罪悪をなすこと)

善法(ぜんぼう, 356R, 補遺)

Ley, ou doutrina de **virtude**. (善の教法、あるいは、善の教義)

六波羅蜜(ろくはらみつ, 539R, 補遺)

Seis exercicios, & obras de **virtude**, que poem os Iapões aos principiantes como nouiços.

(日本人が、修練者のような初学者に課する、六つの修行と善行と)

meditar [他動] ①考え込む、熟考(黙想)する ②考慮(検討・研究)する ③もくろむ、計画する

meditação [名] 熟考、瞑想、沈思黙考；瞑想録

閑道人(かんだうにん, 089L)

Pessoa que tem bem **meditado**, & penetrado as cousas do goxõ dos Ienxùs. (禅宗で言う後生の事について十分観念・黙想をこらして、会得している人)

勘破了(かんぱりょう, 091L)

Ter bem entendido, & penetrado as cousas que os Ienxus dão a **meditar**. (観念・黙想するために禅宗僧が与えた事柄を十分に理解し、会得していること).

禅波羅蜜(ぜんばらみつ, 356L, 補遺)

O considerar, ou **meditar** as cousas da saluação conforme a certo

modo que Xaca ensina. (釈迦の教えるある方法に従って、救霊の事について考えをめぐらしたり、観念・瞑想したりすること)

観修し,する(かんしゆし,する, 520L, 補遺)

Meditar. (観念・瞑想する)

覚前(かくぜん, 075L)

O estar exercitado nas meditações dos Ienxus.

(禅宗の瞑想・観念について修行を積んでいること)

朝参(ちょうさん, 128L)

O ir polla menhaã a tomar os pontos de meditação.

(朝、観念・黙想の題目〔公案〕を貫いに行くこと)

極則(ごくそく, 305L)

Ponto principal das meditações dos Ienxus.

(禅宗僧が行なう観念・瞑想の主要な眼目)

了却(りょうきゃく, 535R, 補遺)

O ter alcançado, & penetrado algũa cousa por via de meditaçam.

(観念・瞑想によって、ある事を会得し、徹底して知ること)

六波羅蜜(ろくはらみつ, 539R, 補遺)

Iengiö.(禅定) Meditação quieta sem outras pensamentos. (余念をまじえず静かに黙想すること)

座禅(ざぜん, 840R, 補遺)

Meditação(観念・瞑想)

4.5 クラスタE—lei(法), obra(努力), modo(方法)

クラスタEに分類された語彙の中には、目に見える行為(obra)、実際の方法・方式(modos)、それらが準拠するところの原理としての教法(lei)とが配属されている。その語義と主要用例は次のとおりである。

lei [名] ①法、法律；法令、条令 ②法制、法体系 ③規範、規則；法則
④掟、慣例 ⑤支配、権力 ⑥教え、教理

伝法(でんぼう, 183R)

O comunicar, ou dar parte a outros da lei, como o mestre aos discip

ulos. (師匠が弟子にするように、教法について他の人に伝達し、知らせること)
本法(ほんぽう, 259R)

Propria lei, ou doctrina. (本来の教法や教義)
本法(ほんぽう, 261L)

Propria lei, ou doctrina. (本当の教法、あるいは、教義)
四教(しきょう, 775L)

Quatro leis, ou doutrinas de que se fala no Buppô.
(仏法の中で説かれる四つの教法、または、教義)

obra [名] ①仕事、労働；骨折り、努力 ②成果、成績；作品、著作 ③工
事、事業；修理、改修；建設中の建物

浄行(じょうぎょう, 368L)

Boas obras, ou puras. (善行、または、清浄潔白な行ない)
縁(えん, 818L)

& outras relações as obras da vida precedente,
(前の生〔前世〕における行為とか、)

E porque as obras desta vida (そしてまた、今の生における行為は)
雑行(ぞうぎょう, 843L)

Obras viciosas(邪悪な所行・行為)

過去の業(かこのごう, 515R, 補遺)

Obras que hum faz na outra vida antes de nacer nesta.
(人が現世に生まれる以前の、前世でなした行為)

六波羅蜜(ろくはらみつ, 539R, 補遺)

Seis exercicios, & obras de virtude, que poem os Iapões aos principia
ntes como nouiços. (日本人が、修練者のような初学者に課する、六つの修行
と善行と).

modo [名] 仕方、方法、方式、手段；様式、形態 ②状態、気分、気持ち
③しつけ、行儀、態度；礼節 ④慣例、流儀

別法(べつぽう, 053R)

Outro modo de doutrina, ou de ensinar.
(他の流儀の教義、または、他の流儀の教え方)

陪堂(ほいとう, 258R)

Modo de pedir. (乞い求めるさま)

悟道(ごどう, 305R)

Modo de meditar, & entender as cousas do Buppô.

(仏法に関する事を観念・瞑想し了解する方法)

悟り(さとり, 561R)

¶ Item, Modo de meditar dos Ienxus & cair nas cousas do Bup.

(また、禅宗僧が観念・瞑想をこらして、仏法関係の事柄を了解すること)

縁(えん, 818L)

daqui vem outro modo de vsar deste vocabulo, que he,

(この点からこの語の別の使い方が出て来る)

禅波羅蜜(ぜんばらみつ, 356L, 補遺)

O considerar, ou meditar as cousas da saluação conforme a certo mo do que Xaca ensina. (釈迦の教えるある方法に従って、救霊の事について考えをめぐらしたり、観念・瞑想したりすること)

5. おわりに

本研究ではキリシタン版『日葡辞書』の「仏法語」177語を対象にして、その注記形態と、意義説明の特徴について検討した。特に「上界」「頓証」「悟り」の3語において「仏法語」の注記を確認した。

注記形態の特徴としては、Bup.(149例)が多数を占めているが、Bupp.やBuppoなどのバリエーションもなお存在し、補遺においても完全な統一には至っていないことを確認した。そして、注記の出現位置は、本篇においては見出し語の直後に注記される先頭型と、語義説明の末尾に来る後尾型が拮抗するが、補遺では後尾型に統一されている。邦訳索引において「仏法語」として見なされた語の中にはBup.以外にもIenxu, Bozosなどの注記によったと考えられるものがあることもわかった。

意義説明における特徴を検討するために、ポルトガル語原文のテキストデータを用いてWord2Vecによる語彙のクラスタリングを行った。五つのクラスタを設定したが、配属語彙が語義説明でどのように使われているのかを綿密に検討し、最終的には四つのクラスタ、A(知・霊・救)、C(生・身)、D(本・善・念)、E(法・行)に

においてクラスタ内の一定の傾向性を見出すことができた。

今後は、「仏法語」の意義説明における語彙的な特徴についての知見をもとに、その対象を仏教語全般にまで拡張し、いかなる語彙がいかなる態度で記述されているかについて綿密に検討していきたい。

【参考文献】

- 池上岑夫・金七紀男・高橋都彦・富野幹雄(2012)『現代ポルトガル語辞典』(改訂版), 白水社, pp.1-1463
- 今泉忠義(1971)『日葡辞書の研究』, 桜楓社, pp.1-1138
- 金井清光(1993)「キリタンと仏教語」『清泉女子大学紀要』41, pp.1-26
- 小島幸枝(2007)「コンテムツスムンヂ」の仏教語—ラテン語原典より見た翻訳語の実態— 『ことばの論文集: 安達隆一先生古希記念論文集』(安達隆一先生古希記念論文集刊行委員会編, おうふう), pp.565-538
- 鈴木広光(1991)「キリタン宗教書における仏教語の問題」『名古屋大学文学部研究論集 文学』37, pp.47-58
- 土井忠生・森田武・長南実編(1980)『邦訳日葡辞書』, 岩波書店, pp.1-862
- 狭間芳樹(2015)「A・ヴァリニャールによる仏教語使用の企図—『日本史』(1601)を手がかりに—」『アジア・キリスト教・多元性』13, 現代キリスト教思想研究会, pp.35-52
- 日野振作(1997)「初期キリスト教宣教師の仏教語理解」『親鸞教学論叢: 村上速水先生喜寿記念』(村上速水先生喜寿記念論文集刊行会編, 永田文昌堂, pp.149-164
- 森田武(1989)『邦訳日葡辞書索引』, 岩波書店, pp.1-305
- _____ (1993)「仏法語」『日葡辞書提要』, 清文堂出版, pp.333-336

【Web資源】

- 豊島正之『対訳ラテン語語彙集(Latin Glossaries with vernacular sources)』
<https://joao-roiz.jp/LGR/> (最終アクセス: 2023.11.15, 但しサーバOSのサポート期限のため、2024年2月以降はサービス停止中)

저자명 : 申雄哲 (Shin, Woong-Chul)
이메일 : shin.wngchL@gmail.com

접 수 일 : 2024. 04. 14.
심사개시 : 2024. 04. 21.
심사완료 : 2024. 05. 07.

<Abstract>

**Buddhist vocabulary in the *Vocabulario da Lingoa de Iapam*
: Focussing on the *Buppo* words**

Shin, Woong-Chul

The Christian edition of the *Vocabulario da Lingoa de Iapam* was published in Nagasaki in 1603 and 1604, the main volume and the supplementary volume respectively. The purpose of compiling the dictionary was to help Catholic missionaries learn the Japanese language. It is particularly noteworthy for its inclusion of not only practical everyday words, but also so-called comprehension vocabulary, such as rigid sentences and terms of indigenous Japanese religions such as Buddhism and Shinto. Since the publication of *Hoyaku Nippo Jisho*, the dictionary has been used and studied in various ways as a source for Japanese language research. The Buddhist vocabulary in the dictionary has been identified in previous studies through the scale of the words with annotation *Buppo* 仏法. On the other hand, the use of Buddhist vocabulary in the *Vocabulario da Lingoa de Iapamas* well as in other Christian materials has also been examined. This study focuses on the *Buppo* words in this dictionary, which have certain morphological features. Text mining was carried out to identify the lexical descriptions of Buddhist-related Japanese vocabulary. This will provide a linguistic insight into Catholic missionaries' perceptions of Buddhism in Japan in the 16th and 17th centuries.